

社会科・公民科教育法 2 模擬授業研究会と次回以降の流れについて

氏名()

1 確認情報

(2) 模擬授業者・サポーターの担当について

日程と担当を記載しました。

※○がついているのが、メインサポーターです。

(1) 模擬授業担当者について

- ・ 模擬授業者は、授業当日に、以下の6点の資料をまとめて、__部印刷してきてください。
- ・ 模擬授業後に生徒役に配ります。生徒役に配る分は、印刷の枚数を少なめにできるような工夫(割付・圧縮)などをしてもらって構いません。

① 学習指導案(細案)②配布資料の一覧資料③板書計画④ワークシート⑤教科書の該当ページのコピー
⑥【参考資料】授業目標の達成検証シート

(3) サポーター担当者について

- ・ サポーター役は、模擬授業日までに、かならず模擬授業を一度見学して、コメントを言うようにしてください。→必要に応じて連絡先を交換してください。
- ・ 学習指導案に対するコメントも必ずするようにしてください。
- ・ メインサポーター役は、模擬授業の生徒役にはなれません。模擬授業の際は授業観察役をお願いします。(水曜クラスに限り、サポーターは二人とも観察役でOKです)
- ・ サポーター二人には、次回の模擬授業研究会の司会をしてもらいます。

2 次回以降の模擬授業研究会に向けて

※意識的に、「模擬授業研究会」という言葉を使っています。「訓練ではなく研究を！」の精神です。

(1) 次回の模擬授業研究会の流れについて

以下の順序で研究会を行います。計 40 分程度を予定しています。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 3 点の資料の配布(模擬授業の書きおこし資料、生徒役のレポートのまとめ資料、ワークシートのまとめ資料)2. 模擬授業者及びサポーターの振り返りと論点説明 (4 分程度)3. 生徒役の模擬授業アイデア資料の共有(周りの数名と)(3 分程度)4. 論点に関する研究会 (マイクを回す形で) (30 分程度)5. 斉藤のコメント (4 分程度・レジュメ配ります) |
|---|

※翌週に「研究会のフィードバック担当」による説明があります (詳細は次週説明します)

(2) サポーター役に向けて

- 今日の模擬授業の様子を観察して、メモを取るようにしてください。メモした紙は写真に撮らせてください。
- 生徒役のワークシートを回収してください。(授業後に斉藤がワークシートを印刷(複写)します。)
- 次週の研究会に向けて、ワークシートの内容を共有しつつ、模擬授業者と振り返りの反省会を行い、論点を決めてください。
- 研究会の論点資料を作成してください。
- 研究会資料は、タイトルに「〇〇さんの模擬授業研究会の論点資料」と据えてください。内容は大きく二部で構成し、前半は、(1)模擬授業の観察を終えて、課題だと思ったこと、後半は(2)皆さんと議論をしたい論点、としてください。それぞれ、読者が読んで意味が分かりやすいように、ビジュアルや書き方を検討してください。(イメージとして【資料 1】を載せておきます。昨年と書いてもらう内容を変えていますので、誤解のないように。)
- 司会をしてもらうので、次回の研究会の運営に関して、大まかな役割分担や流れを話し合っておいてください。
- 研究会の際には、司会者の片方が、研究会で出てきた意見を板書するようにしましょう(記録・可視化)【資料 2】
- サポーターは、論点資料を斉藤に前日までに確認してもらい、OK をもらうようにしてください(メール or 直接)。
- サポーターは、責任をもって論点資料を人数分 (_ 枚) 印刷してくるようになっています。

(3) 模擬授業者に向けて

(模擬授業時に関して)

- 授業の初めに 30 秒くらいで扱う単元・範囲について紹介してください。
- 模擬授業の音声を録音してください。ビデオ撮影は斉藤がしますので、聞き取れない音があること

を考慮し、教室前方で録音するのが望ましい気がします。

- 最初に授業者がタイマーを押し、30分が経ったら、すみやかに授業を終えてください。
- 模擬授業が終わったら、黒板の写真を撮るので、すぐに片づけないでください。
- 模擬授業中に授業風景を撮影する場合があります。気にせずに授業を続けてください。

(書き起こし資料に関して)

- 今日の模擬授業の書き起こし資料を作ってきてください。
- 模擬授業日に音声データを送るようにするので、【資料3】のようなイメージで資料を作成してきてください。
- ページ数が増えすぎないように工夫しつつ、読みやすい工夫もしてもらえると助かります。
- 次回の模擬授業研究会に向けて、サポーター役と研究会をしておいてください。
- 締切は模擬授業日を含んで5日間、つまり月曜日授業の人は金曜日中に、水曜日授業の人は日曜日中に、木曜日授業の人は月曜日中に、提出してください。**締め切り時間は24時です**
- 書き起こしの資料を提出する際は、必ず自分の名前を名乗って、挨拶をすること。メールの件名には「書き起こし資料・〇〇クラス・名前」という形で書くようにしてください。

(振り返りレポートについて)

- 模擬授業担当者は、模擬授業研究会の翌週の授業で、振り返りレポートを提出してもらいます。
- **字数は600字以上**でWord提出すること。メールでのWordの提出が望ましいです。
- それぞれに書いてほしいことは以下の通りです。

1. どのように模擬授業の準備を行ったか？
2. 模擬授業を実施してみた時の感想
3. 研究会に向けてどのような準備をしたか？
4. 研究会を終えて、今の感想。今後の抱負

※サポーターと協力したことなども書いて良い。
(文末に字数を書くこと)

(4) 生徒役に向けて

(感想レポートの提出に関して)

- 感想レポートは模擬授業1つ1つに対して、**400字以上です(授業者が2人いれば800字以上)**。
提出の際は、二つの感想レポートをメール本文にベタ打ちしてまとめて提出してください(難しければWord資料にまとめて添付送信してもOKです)。字数が多い分には全く問題ありません。
- レポートの最後の段にレポートの(模擬授業1つ1つの)字数を書いてください。
- 締切は模擬授業日を含んで5日間、つまり月曜日授業の人は金曜日中に、水曜日授業の人は日曜日中に、木曜日授業の人は月曜日中に、提出してください。**締め切り時間は24時です**
- 提出先は斉藤(jsaitoh@tokai.ac.jp)まで。メールでの提出のみ可。出来る限りWordで提出すること。どうしても難しい人は、PDFにして欲しい。(Macユーザーは注意すること)
- レポート提出の際は、必ず自分の名前を名乗って、挨拶をすること(礼儀というより、常識です。)。
メールの件名には「感想レポート・〇〇クラス・名前」という形で書くようにしてください。
- 基本的には、思ったこと・感じたことを書いて良いですが、基本的には「授業の構成・展開」「問いの立て方」「資料の作成方法」などを中心に考えて欲しいと思っています。必要に応じて、細かな授

業技術などに関しても触れてもらえればと思います。

- 授業映像で書くことが思いつかなければ、指導案や配布資料を基にした意見でも全く構いません。例えば、「【参考資料】授業目標の達成検証シート」を基に指導案を考察すると意見が書きやすいと思います。

- 感想レポートを書く際は、以下の論点の順序で書くようにしてください。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">① 生徒の立場になって(生徒の視点に立って)感じたこと。② この授業に対して、変えた方が良いと感じた点、③ ②の点を具体的にどのように改善すべきか？④ 授業者の強み。活かした方が良い長所など。応援メッセージ。 |
|---|

- 参考として過去の履修者のレポートを【資料 4-1】【資料 4-2】に示します。ちなみに、資料として示したレポート例は3年生が作成したものです。
- 感想レポート内容は、全員分をまとめて、次回の研究会で印刷・共有します。(斉藤)
- 感想レポート内容に関しては、研究会の際に私が特によかったと思うレポートを理由と共に若干紹介します。
- このレポート作成に一生懸命になれば、当然、相手の授業を自分事のように考え、図書館に行ったり、文献調査をすることが必要になってきます。そういう努力をしている人としていない人の線引きは私の中で行っていきたいと思います。たまに「模擬授業期間中は知識のインプットがないので、自分の模擬授業の時以外は楽だ」という人がいますが、それは違うと思います。(良い授業とは何かを真面目に考え始めれば、終わりはないので。)

(提示資料の準備に関して)

- 模擬授業当日に、模擬授業に使えるような提示資料を一枚 A4 で印刷してきてください。A4 は回収するので、表の端に名前を書くこと。(資料を PDF 化して、模擬授業者に共有します。)
- 提示資料をレポート内に組みこんだうえで、当日にその提示資料を持ってくる分には構いません。
- 提示資料は、【資料 4】のレポートの例に出てくるような画像を参考イメージにしてください。

(5) 模擬授業の動画のオンライン共有について

- ドロップボックス(Dropbox)の機能を使って、模擬授業の映像と指導案一式のデータを共有します。
- 初日模擬授業が終わった日の 24 時まで、授業映像と指導案などのデータを共有するための URL を履修者全員に送ります。URL をクリックすれば、模擬授業の動画が見れる設定にします。(※動画は、一週間経つと削除します。)
- 撮影した動画を見られたくないという人は、私に言ってください。その場合は、音声だけの情報共有にします。

<p><u>【強いお願い】 模擬授業の動画はダウンロードしないでください。また、模擬授業の動画の情報は、自分が履修しているクラスの履修者以外には漏らさないようにしてください。(プライバシーへの配慮をお願いします。信頼の元に成り立つ形式だということを認識してください。)</u>。本授業以外で動画を活用したい場合は、斉藤まで必ず相談をしてください。</p>

- 生徒役・サポーター役で欠席した人も、動画を見て情報をシェアし、課題をこなしてください。

3 その他：事務的なこと

- 模擬授業の日に休んだ履修者も、Dropbox の情報をもとに、課題提出をしてください。(繰り返し)
- 模擬授業者やサポーターになった人は、その模擬授業については感想レポートを書く必要はありませんが、仮に同日に他の模擬授業が実施された場合は、他の生徒役と同様に感想レポートを提出してください。
- 模擬授業の検討関係で、レポート提出等が 2 回以上遅れた場合、成績評価に大きく影響させます。信頼の下に成り立つ仕組みだということをご理解ください。(何らかの理由や予定で、提出が遅れそうな場合は、予めそのことを齊藤まで連絡ください。)
- サポーターなどと模擬授業前の練習をする際に、例えば、模擬授業の映像を Dropbox のほかに、Google ドライブや OneDrive などの機能でサポーターに送ることも可能かもしれません。そのほか、動画を送る方法はいろいろあると思います(むしろ皆さんの方が詳しいかもしれません)。工夫をしてみてください。
- キャンパスライフエンジンから連絡をする機会が増えるので、必ず転送設定をして頻繁にチェックするようにしてください。(「チェックしていなかった」というのは理由になりません。)
- メール送信の誤作動などは、基本的には送り手のミスと捉えます。(パソコンの誤作動などによる提出遅れは認められません)。基本的にはメール返信に努めるつもりなので、1 日たっても返信がなければ確認連絡をください(確認をするのも皆さんの責任です)。
- 齊藤は 24 時～7 時以外の時間は、キャンパスライフエンジンのメールを送る可能性があります。ご理解ください。
- 齊藤への連絡は 24 時間、平日・休日問わず、いつでも OK です。
- サポーターが協力してくれない or(サポーター側から見て)模擬授業担当者から連絡がない、などの場合は、気軽に齊藤まで連絡を下さい。

4 その他：模擬授業研究会への参加態度について

- 模擬授業研究会は、基本的には自由な挙手制によって行います。そのため、発言したくなければ発言しないことも可能です。
- 基本的には司会が全て進行しますが、発言回数が多い人と少ない人が同時に手を上げたら、(雰囲気的に)発言回数が少ない人に優先して当てる場面も出てくるかと思います。
- 大前提として、どんな意見もウェルカムですし、(最低限の礼儀を守れば)どんな素朴な意見も受け入れるオープンな場づくりが重要だと齊藤も考えます。
- ただ、そもそも挙手しない人に関しては、この研究会のスタイルではやや厳しい評価を受けると思います。模擬授業から一週間の時間を空けている分、「考える時間がなかった」という言い訳は成立しません。発言しないのは、いわば自己責任となります。「発言する意志がない＝研究会に貢献する意志がない＝模擬授業者に対するリスペクトが薄い」という図式で齊藤は捉えます。
- そのため、発言が苦手だという人は、事前に準備をして臨むようにしてください。発言が苦手だという人の相談には、いつでも乗ります。

- 研究会中に、私はパソコンでメモを取っているかもしれません。それはカルテを取るためです。各履修者がどういった発言をし、どういうプロセスを経たのかを私なりに記録しようと思っています。それを評価にも組み込みます。

【斉藤が書くカルテのイメージ】

水曜 4 限クラス	
名前 A	(10月23日・第4回授業) <ul style="list-style-type: none"> レポートの準備に気合を入れている様子。意欲的に文献調査を行ったことが感じられる。 研究会の際には、自分の意見を何とか言語化しようとしていた。ほかの人の意見も取り入れた発言姿勢が良い。 (10月30日・第5回授業) <ul style="list-style-type: none"> 今週のレポートは内容が薄い。忙しかったのか？
名前 B	(10月23日・第4回授業)
. . .	

【資料 1】サポーターが作成する「研究会の論点資料」のイメージ（過去の資料を抜粋）

今日の検討会の論点に関する資料

模擬授業者

名前

サポーター:

二名の名前

①全員分の感想レポートを読んで思ったこと

- (1)「賛否が分かれる」という印象を受けた
 - 例えば、ハンガーを持っていたことに対して、「意味がわからない・集中できない」という意見もあれば、「良かった」という意見もあった。等
- (2)多様な意見が出づらいのでは？という意見が多数あった
 - 原因は発問・資料・展開の順番など
 - 様々な改善策があり、読んでいだけでも勉強になりました！
- (3)自信をもって堂々と授業をしていたという意見が多数あった
 - 私もそう思います！

②議論したい論点

◎ どうすれば多様な意見が出るのか？



- (1)展開の順番
 - ・生徒に解決策を出してもらう→世界の取り組みを見ていく
 - ・世界の取り組みを見ていく→生徒に解決策を出してもらう
- (2)展開の内容
 - ・食糧問題の原因と世界の取り組みだけでは不十分か？
 - (どのような内容であれば十分だと言えるのか？)

} どちらの方が良いのか？

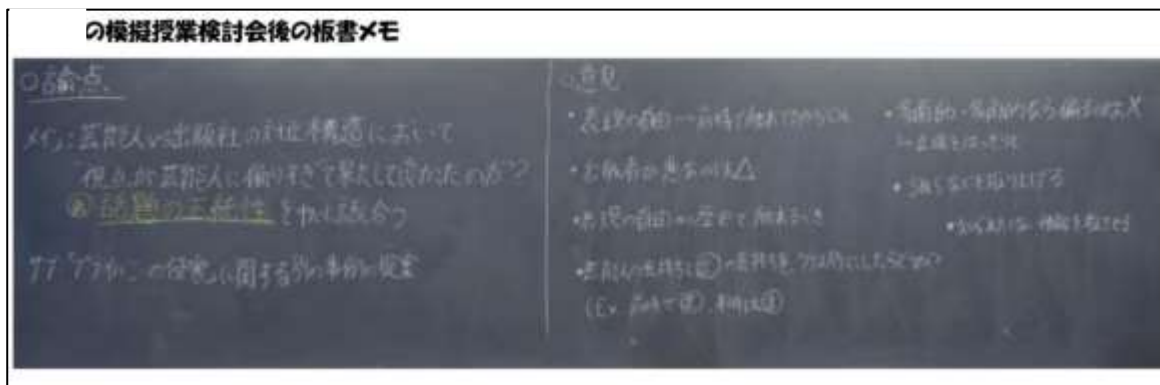
③この論点にした理由

- ・感想レポートで多様な意見が出づらいのでは？という意見が多かったため
- ・様々な解決策が書かれていたことから、活発な議論が望めるのではないかと考えたため
- ・授業者の気持ちを考慮したため

☆模擬授業をした範囲の資料

【資料 2】研究会の際の板書の例（過去の資料を抜粋）



【資料 3】書き起こし資料の抜粋（過去の履修者のものを抜粋）

社会科公民科教育法 2

模擬授業の書き起こし資料

学籍番号・名前

T: 授業始めたいと思います。〇〇くん号令をお願いします。

S: 気を付け、礼

T・S: お願いします。

T: さて、今日はさっそくなんだけど、みんなに見てもらいたいものがあります。
 なんだとおもう？（提示資料 1 を前席の人に配る）回してください。
 さて今みんなにみてもらっているもの、（提示資料 1 を黒板に貼る）見えるかな
 これをいまみんなに見てもらっています。今持っている人（手を挙げてもらう）
 これなんだと思う？

S: ドル札

T: ドル札、なんでドル札だと思いましたか

S: 英語で・・・

T: 英語で書いてある、何が書いてある？

S: 映画で見たことある

T: 正解これドル札なんだよね。で、回すペースが速くて後ろまで行ったんだけど、まあ、
 英語で 1 ドル（板書）1 ドル札、じゃあ、このドル札、欲しい人どのくらいいます

※以下、書き起こしが続きます（略）。

【資料 4-1】生徒役のレポートの例（平和主義の授業に関して）

① 生徒の立場になって感じたこと

「平和のイラスト」「WRI」「日本の平和のシンボル」「国際平和 DAY」「第二次世界大戦」「平和主義の理念」、主発問が出る前にこれだけの情報が提示されたが、情報量が多く、また板書もしていなかったため自分たちが今何を学んでいるのか分からなくなりました。ゆえに、口頭中心の授業であるとも感じられました。

② この授業に対して、変えた方が良く感じた点

思考・判断・表現を評価する授業に対して、考えさせる機会とその材料が釣り合っていないのではないかと思います。導入で様々な情報が提示されたが、これといって掘り下げられるわけもなく淡々と授業を進めてしまったことに勿体なさを感じました。

③ ②の点を具体的にどのように改善すべきか

主発問を変えないのであれば、やはり導入での情報資料を掘り下げ、主発問の内容に結びつけることが望ましいのではないかと思います。例えば、「世界平和デー」では、公式 HP に「From education to the arts, social justice to sports, health to the environment, neighborhood issues to service for others, there are many ways to participate in Peace Day! We invite you to create a public or private activity related to peace, spread the word about Peace Day and/or attend an event in your community.」と記載されており、最後に「What can you do?」と書かれています。これを基に、日本が平和に向けて具体的に何を行っているのかを授業を通して学び（自衛隊や憲法など）、まとめとしてそこに自分の考え方を持たせるのが良いのではないかと思います。

④ 授業者の強み

これだけ調べができていれば、後はそれを授業にどう活かすかが鍵になります。教材研究に対する熱意があればそれだけ授業に「らしさ」が生まれます。頑張ってください。

参 照 HP : <https://internationaldayofpeace.org/get-involved/>



【資料 4-2】生徒役のレポートの例（平和主義の授業に関して）

① 生徒の立場になって感じたこと

全体的にテンポが速かったように感じました。緊張もあると思うのですが、説明や話をするとき早口で生徒によっては追いつけない人も出てくるのではないかと思います。

またテンポが速いということもあってか、世界の平和の象徴から日本の平和の象徴、日本の平和の象徴から平和主義という流れがいまいちつかみきれませんでした。

② 変えたほうが良いと感じた点

まず提示資料はもっと上へ貼るべきだと思います。黒板の下部に貼ってしまったため、3列目に座っていた私ですら見にくかったです。

提示資料もオリーブの髪飾りを巻いたアテネの写真はなくても良いと思います。

全体的に教師の話す量が多いように感じたので、いくつか生徒に問うようなかたちをとるべきだと思います。

教科書を生徒に5行だけ生徒に読ませたのですが、その後に教師が残りの教科書の文章を読んだので、そこは全て生徒に読ませ、その文章を分かりやすく教師が伝えるという方が良いと思います。

何より問題だと思うのが、主発問が話の流れで登場してしまったことです。

③ 具体的な改善案

平和の象徴という入り口をやりたのであれば、オリーブの髪飾りを巻いたアテネの写真ではなく、ピースマークを用いても面白いと思います。実際、様々なアクセサリなどのデザインに使われているピースマークが反戦の象徴であることを案外知らないと思います。そのためピースマークを生徒に見せ、「このマーク見たことある人？」と聞き、そこで手を挙げた生徒に「このマークの意味って知ってる？」と聞いてみると良いと思います。



ピースマーク

世界の平和の象徴を紹介した後、「日本の平和の象徴ってあると思う？」や「日本にも平和の象徴があるんだけど何だと思う？」と問うことでただ生徒が聞くだけではなく、考えながら授業が受けられると思います。

主発問は本時の授業でどのようなことを学び、考えていくのかということのテーマとなるため、しっかりと黒板上に明記することで生徒に意識させるべきだと思います。

④ 授業者の強み

単元に対して下調べをよくしているところが見られたのはとても良かったと思います。世界の平和の象徴として誰でも思いつくようなものではなく、ライフルを折っているマークを見せることで生徒に考えさせるような工夫が見られました。このようなシンボルマークや風刺画などを導入部分で活用するのはとても良いと思うので今後も続けて欲しいと思います。